

平成29年度 第3回 木曾川水系流域委員会 【河川整備に関する地域住民からの意見について】

平成29年8月17日

国土交通省 中部地方整備局

木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所

意見聴取概要

■ 現行の河川整備計画の点検に際し、現在の河川整備に対して地域住民からの意見を伺うため、「木曾三川の現状及び今後のあり方」と題して、ふれあいセミナー及びホームページを活用した意見募集を行いました。

ふれあいセミナーを活用した意見聴取の概要

会場	開催日時	開催場所	参加人数
桑名会場	平成29年7月30日（日）14時30分～16時00分	長島町総合支所	21人
岐阜会場	平成29年8月6日（日）10時00分～11時30分	木曾川上流河川事務所	11人
関会場	平成29年8月6日（日）14時30分～16時00分	関市文化会館	18人



桑名会場



岐阜会場



関会場

ホームページを活用した意見聴取の概要

意見募集期間	意見募集方法
平成29年7月31日（月）～平成29年8月10日（木）	電子メール、ファックス

頂いた主な意見

■頂いたご意見については、現行の河川整備計画の点検において、「地域住民の意向」として、考慮しています。

治水に関する主な意見

- 木曽川では、年々、河床に土砂が堆積している。河床の堆積状況をよく観察して、浚渫にも取り組んでほしい。(桑名会場)
- 三川共に樹木繁茂が多い。樹木は洪水時の流下阻害となるため、樹木伐開は必要である。(桑名会場)
- 木曽川左岸の尾張大橋～JR、近鉄橋梁の堤防が低いので不安である。少なくとも橋梁際までの堤防を嵩上げしてほしい。(桑名会場)
- 想定外の出水対策として、農地に遊水地の機能をもたせ、浸水した場合には補償をするなどの方法もあるのではないかと。(桑名会場)
- 揖斐川、長良川で河道掘削を実施しているが、その後に大垣市内等で自噴が増加しているのではないかと。良い面もあるが洪水には心配である。(岐阜会場)
- (山間部の)樹木に関しては、膨大な山間部を河川管理者と山林管理者間で協力して管理することが必要ではないかと。適切に管理することで山の保水力をもっと生かせるのではないかと。(岐阜会場、関会場)

環境に関する主な意見

- 治水と環境、両方大事であるが、治水に害をおよぼすような一部の生物について考えるべき。例えば、カニが堤防に穴を掘って、堤防が貧弱になるなど考えられる。水面下の動植物の生息場所・生態も調査・把握して、治水に影響を及ぼさないようなコントロールも必要ではないかと。(桑名会場)
- 河川内の樹木伐採を進めて頂きたい(河川内の障害とならないように)。河川環境の保全(イタセンパラ)の成果がすばらしい。堤防の維持管理を大切に継続して頂きたい。オオキンケイギク対策を考えて頂きたい。(岐阜会場)
- 砂礫河原の再生を実施していただいているが、1年もすれば再繁茂している。昭和40年頃については毎年出水があり、植生の再繁茂はせず手を加えることなく砂礫河原は維持されていた。昭和40年と現在の状況(水位、流量)等を比較してどのようなことが異なっていたのか、メカニズムを解明してみてもどうか。(岐阜会場)
- 生物・草木については、希少種を守るだけでなく、外来種の駆除も重要ではないかと。外来種の存在を知らない住民も多いため、周知していく必要がある。(岐阜会場)
- 板取川をはじめ、土砂生産が多くなり、鮎が住みにくくなっているのではないかと。直轄・県・上流の治山含め、国が各関係機関と連携を取り、流域全体のことを考えながら川の保全を行ってほしい。魚が住みやすい環境を作してほしい。(関会場)

頂いた主な意見

■頂いたご意見については、現行の河川整備計画の点検において、「地域住民の意向」として、考慮しています。

維持管理に関する主な意見

- 排水機場の整備は進められているが、更なる降雨にも対応できるよう、内水対策として排水ポンプの増強をお願いしたい。(桑名会場)
- 河道掘削実施後に、再堆積してしまうのではないかと。今後、再堆積しづらいような掘削を検討したほうがよいのではないかと。(岐阜会場)
- 長良川グランドホテル前の砂礫が出水により砂地になってしまった。人工的な対策では限界があるので、自然の営力を活かした工法・対策等を考えていくことが必要ではないかと。(岐阜会場)

その他全般に関する主な意見

- 河川利用の推進として整備しているサイクリングロードは、木曽川上流区間では市町の枠を超えて整備が進んでいるが、木曽川下流区間では整備がされていない。上下流一体的に整備を進めてほしい。(桑名会場)
- 地震発生時に、東名阪の上へ地域住民が避難できるよう階段等の整備をにしてほしい。(桑名会場)
- 耐震対策を行っているかは見た目では分からないため、効果があるような工法が行われているのか不安。市民でも分かるように示してほしい。地域全体として工事の意味・目的が伝わっていないと感じるため、地域の方や道路通行者の方にももう少し工事のPRの工夫をする必要があるのではないかと。(桑名会場、岐阜会場)
- (遊水地は)国が土地を買収するのではなく、農地のままエリアを広げてほしい。洪水があった地域は堆肥がはいって豊かな土壌になっている。(岐阜会場)
- 整備計画策定より10年経過したが、30年間そのまま進めるのではなく、10年経過した整備計画の点検結果を説明して欲しい。10年前の計画をそのまま今後につき進めるのではなく、社会情勢の変化に伴い臨機応変に対応していくという考え方を持ってもよいのではないかと。(岐阜会場)

頂いた主な意見

その他全般に関する主な意見

- 防水意識と共に「子供が遊べる川づくり」も必要ではないか。長良川で遊んだ経験をもつ子供は少ないと思われる。(実際、川で遊んでいる場面を全く見ない。)川を恐れる存在としか見えないのは悲しい。(岐阜会場)
- 九州豪雨では非常に多くの流木による被害が発生している。間伐材が流出していると思われる。今後、木曾川においても間伐材が洪水時に流出し災害が起こるのではないかと懸念している。(岐阜会場)
- 中山間地域(溪流地帯)において、溪流の侵食によって山崩れなどの災害が発生しているが、これらの課題については整備計画にはあがっていないので心配である。(岐阜会場)
- 昭和18年ごろに、荒田川(木曾川支川)から名古屋港までの運河の計画がある。このような計画を今後どのように扱っていくかということとをきっちりとしていく。お互いに知らない情報についてPRしていき、地域や市町村、県と協力していきながら進めていく必要があるのではないか。(岐阜会場)
- 水防災意識社会の再構築について、地球温暖化の説明では「台風の大型化」「豪雨の増加」など、ざっくりとした説明と、線量降水帯は全国どこでもある、の説明で終わる。では「自分の地域ではどうする」と思った時に必要になるのは防災について、特に岐阜県なら、自分の地区の水害が気になる。(関会場)
- (水位等の情報について)地区ごとの予測、学区毎の対処など住民とともに予測し、事務局がもっている必要な情報を出して欲しい、そういう機会を作ってほしい。(関会場)
- 水防災意識社会の再構築について、意義については理解できた。環境省においても水防災に関して同様の趣旨のものがある。しかしながら、国土交通省と環境省とで説明していることに違いがある箇所もあるのではないか。違いがある場合には可能な限り統合させて、一般の方に誤解が生じないような説明をお願いしたい。(関会場)